

第七十三回  
帝國議會  
貴族院

# 恩給金庫法案特別委員會議事速記録第一號

付託議案

恩給金庫法案

恩給法中改正法律案

庶民金庫法案

無盡業法中改正法律案

委員氏名

委員長 三井清一郎君

副委員長 男爵渡邊 修二君

侯爵大隈 信常君

侯爵井上 三郎君

伯爵山田 英夫君

子爵大河内輝耕君

子爵裏松 友光君

子爵大岡 忠綱君

宇佐美勝夫君

内田 重成君

男爵前田 勇君

男爵柴山 昌生君

丸山 鶴吉君

深井 英五君

濱口儀兵衛君

野村 徳七君

米原 章三君

岩崎 清行君

昭和十三年三月十二日(土曜日)午前十一時二十九分開會

○委員長(三井清一郎君) 只今ヨリ恩給金

庫法案外三件ノ委員會ヲ開キマス、不肖三井ハ皆サンノ御推薦デ此ノ椅子ヲ汚スコトニナリ、甚ダ不束デアリマスガ宜シク御願ヒ致シマス、先ヅ恩給金庫法案及ビ恩給法中改正法律案ニ付テ政府當局ノ御説明ヲ求めマス

○政府委員(船田中君) 恩給金庫法案竝ニ

恩給法中改正法律案ニ付キマシテハ、先般本議會ニ於テ大體ノ御説明ヲ申上ゲタノデアリマスルガ、此ノ機會ニ於キマシテ更ニ御説明ヲ附加ヘタイト存ジマス、恩給年金擔保金融ノ問題ニ付キマシテハ、大正十二年現行恩給法制定以前ヨリ、兎角ノ論議ガ交サレテ居ッタモノデアリマス、即チ明治四十二年恩給年金ノ支給事務ガ大藏省ヨリ遞信省ヘ移管セラレ、郵便局ヲ通ジテ支拂ハル、ヤウニナリマシテカラ、支給廳デアアル遞信省ニ於テモ、屢、受給者ト金融業者間ノ紛争ヲ耳ニシ、實際支給事務ヲ取扱フ立場ヨリ、何トカ方策ヲ樹テネバナラヌコトヲ痛感サセラレテ居ッタノデアリマシテ、代理受

領ノ形式ヲ以テスル金融關係ヲ調査シタルコトモ一再デナカッタノデアリマス、故ニ大正十二年恩給法制定ノ際ニモ、之ニ對スル方策ハ主管廳タル恩給局ニ於テ種々考慮セラレタノデアリマスガ、政府部内ニ於テモナカナカ論議ガ多クッタノデアリマス、當時ニ於テハ恩給年金ヲ擔保ニ供スルト云フコトハ、法ノ禁ズル所デアリマシテ、以テノ外ノコトデアアルカラ、違反者ニ對シ制裁ヲ加ヘルガ宜シイト云フヤウナ議論モ相當有力デアリマシテ、現ニ恩給法ト同時ニ制定セラレタル宮内省恩給令ノ如キハ、一種ノ制裁規定ヲ加ヘテ居ルノデアリマス、併シナガラ政府ハ此ノ問題ハ兎ニ角尙考究スル餘地モアルデアラウト云フコトデ、一應從來通り擔保禁止ノ規定ヲ置イタ儘、法律案ヲ提出シタノデアリマスガ、當時衆議院ニ於テハ「速ニ恩給ヲ擔保トスル金融ニ付適當ナル方策ヲ講ズベシ」ト云フ意味ノ附帶決議ヲセラレタノデアリマス、大正十二年ニ新恩給法ノ施行スルニ當リマシテハ、總テ新恩給證書ヲ發行シ、且出來得ル限り本人直接ニ之ヲ渡スト云フ方針デ、種々手段ヲ盡シマシタ結果、大部分ノ擔保關係ヲ一掃ス

ルコトガ出來タノデアリマスガ、之ニ代ルベキ金融機關ノ設置ナキ爲、其ノ後依然トシテ金融業者ニ依ル擔保金融ガ行ハレ、其ノ弊害モ亦一層甚シクナッタ感ガアルノデアリマス、即チ恩給年金ヲ擔保トスル金融ガ漸次惡質ニナツテ參リマシテ、借リル方モ貸ス方モ惡徳ヲ重ネル傾向ガアリ、甚シキニ至ツテハ詐欺的行爲ヲ爲ス者サヘ現ル、ニ至ツタノデアリマス、一、三ノ例ヲ申上ゲマス、恩給證書ヲ擔保トシテ金ヲ借リタ後、幾許モナク支給停止ヲ申請シテ、金融業者ヲ脅カシ、追貸シヲ求メテ、應ジナケレバ證書亡失ヲ申立テテ、再度證書ノ交付ヲ申請スルト云フヤウナ借手ノ惡辣ナ者モアリ、擔保トシテ交付ヲ受ケタ恩給證書ヲ同業者ニ轉賣シテ證書ハ輾轉シテ所在ガ判明セズ、ソレガ爲元本ハ返済シタノニ拘ラズ、證書ハ一生涯返ツテ來ナイ、是ガ爲僅カ三四年分ノ融通ヲ受ケテ、三十年モ恩給ヲ受取ラナイナト云フヤウナ貸手ノ惡辣ナル事例モ相當多クアルノデアリマス、政府ニ於テハ是等ノ實情カラ考ヘマシテ、速カニ何等カノ方策ヲ執ルノ必要アリトナシ、昭和八年恩給法中ノ一部改正案ヲ議會ニ提出

スルニ當リ、特殊ノ金融機關ヲ作り、此ノ機關ニ對シテノミ擔保金融ヲ認メ、從來ノ弊害ヲ一掃スルト云フ方針ヲ決定シタノデアリマスガ、偶、議會ニ於テモ此ノ状態ヲ認識セラレ、衆議院ニ於テ當該法律案可決ノ際ニ速ニ適當ナル方策ヲ講ゼラレ度下ノ希望條件ヲ附セラレタノデアリマス、爾來政府當局ハ銳意準備ヲ致シテ居タノデアリマスガ、金融關係、政治關係等ノ原因ニ依リ、提案ノ機會ガナク、漸ク第七十議會ニ提案致シタノデアリマスガ、御承知ノ通り委員會ノ審議半バニシテ、不幸議會ノ解散ニ遭遇シ、今日ニ至ツタ次第デアリマス、恩給金庫ノ内容ニ付キマシテハ、既ニ御手許ニ差上げマシタ恩給金庫設立要綱ニ依リ御了承ヲ得テ居ルコトト思フノデアリマスガ、金庫設立ノ眼目ハ、一、恩給金庫ガ經營上立行ク程度ニ於テ成ルベク低イ金利ヲ以テ廣ク受給者ニ貸付ヲ爲スコト、二、一面ニ於テ受給者ヲシテ經濟的ノ壓迫ヨリ免レシムルト共ニ、他面受給者タルノ體面ヲ保タシメ、恩給年金給與ノ本旨ヲ維持セムトスルコト、デアリマスガ、尙恩給金庫ハ此ノ擔保貸付ノ外、擔保トシテデハナク、單純ナル代理受領ヲモ行ヒ、委託ガアレバ恩給年金受給ニ關スル各種ノ手續等ヲ受給者ニ代ッ

テ行ヒ、受給者ノ手數ヲ省キ、利便ヲ圖ル積リデアリマス、此ノ仕事ハ一見輕微ノヤウデアリマスガ、例へバ毎支給期ニ於ケル給與金ノ請求、隔年ニ行ハレル受給權調査ノ爲ニスル戶籍謄本若シクハ抄本ノ提出等、交通不便ノ地ニ在住スル受給者乃至婦女子ガ大多數デアアル扶助料權者等ニ尠カラザル利便ヲ與フルコト考ヘルノデアリマス、又業務ノ一項目トシテ裁定前ノ貸付ヲ行ハシムル豫定デアリマスガ、今回ノ事變ニ於ケル犠牲者ハ相當多數ニ上ル見込デアリマシテ、既ニ戰死者ノミデニ二萬ヲ超過スル狀況デアリマス、是等ノ犠牲者ニ對スル恩給、扶助料ノ裁定ニ付テハ當局ニ於テモ出來得ル限り迅速ニ處理スル積リデアリマスガ、矢張り相當ノ日子ヲ要スルモノト思フノスデアリマス、故ニ正式裁定ヲ經テ給與ヲ受クルニ至ル迄ノ間ニ於ケル生活費ヲ必要トスル場合ニ於テハ、一定ノ制限ノ下ニ僅少ノ手數料ヲ徴シ、恩給金庫ガ前拂ヲ爲ス制度ヲ設ケムトスルノデアリマス、更ニ現在恩給、扶助料等ハ三箇月毎ニ給與セラレ、年金ハ半年毎ニ給セラレルノデアリマスガ、都市居住者ニ取ツテハ三月拂ト云フコトハ甚ダ不利デアリマス、此ノ三月間ニ支拂フベキ金ヲ一度ニ受取ル爲、或ハ使ヒ過ギ、或

ハ不足トナリ、爲ニ擔保金融ヲ餘儀ナクサレルヤウナ事例モ尠クナイト思フノデアリマス、故ニ是等ニ對シテ受給者ノ希望ニ基キ、僅少ノ手數料ヲ徴シ、金庫ガ立替拂又ハ分割拂ヲ爲スノ制度ヲ行ハシメタイト思ヒマス、此ノ外附帶的ノ事業トシテ醫療其ノ他受給者ノ福利増進ニ關スル施設ヲモ試ミタラドウカト存ジマス、尤モ此ノ附帶的ノ事業ハ金庫ノ餘剩資力ノ如何ニ關係ガアリマスノデ、直チニ實行ハ困難カト存ジマシマスノデ、直チニ實行ハ困難カト存ジマシマス、成ルベク速カニ行ハシメタイト思ヒマス、以上ニ述ベタ所ニ依リ概ネ御了承ヲ得タコトト存ジマスガ、恩給金庫ノ業務ハ主トトシテ恩給年金受給者ノ福利増進ニ貢獻セムトスルモノデアリマシテ、其ノ目的ハ公益的デアリ、金庫自體ハ何等營利ノ觀念ヲ含ンデ居リマセヌ、從ツテ單ニ擔保金融ノミヲ目的トスル機關トハ本質相容レザルモノデアリ、又對象ヲ異ニスル庶民金庫ハ產業組合トモ全ク別個ノ意義ヲ有スル特殊ノ機關ナルコトヲ附加ヘテ申上ゲテ置キマス、恩給金庫ノ資本金ハ三千萬圓トシ、初年度ニ於テハ五分ノ一ヲ拂込マシメ、爾後必要ニ應ジ拂込ヲ爲サシムル豫定デアリマス、全額拂込ト致シマセヌノハ金庫ハ恩給債券ノ發行權ヲ有シテ居リマスノデ、債券ノ發

行又ハ借入金ニ依リ資金ヲ運轉スル方ガ金利ガ安ク、從ツテ貸付利率モ低クスルコトガ出來ルカト思フノデアリマス、要スルニ出資ハ金庫ノ財的基礎ヲ確立スル程度ニ止メテ宜シイカト存ジマス、又出資ハ出來得ル限り事業ノ本質ニ理解アル方面ヨリ之ヲ求メ、比較的の低利ニ致シタイト存ジマスガ、拂込ノ義務ヲ負ハシムル關係上、出資ニ對シ剩餘金配當ヲ相當ニ致サネバナラヌカト考ヘラレマス、尤モ政府ノ出資ニ對シテハ當分配當ノ免除ヲ受ケルコトト致シタイト存ジマス、次ニ金庫ガ確實性ヲ有スルト云フコトハ金庫ノ信用ヲ増大シ、從ツテ金利ノ安イ金ヲ求メ得ラレ、其ノ結果、又受給者ニ安イ金ヲ貸付得ル譯デアリマスカラ、基礎ノ確立ト云フコトガ一番大切デアルト存ジマス、國家ハ金庫ニ對シ特別ノ監督ヲ致ス積リデアリマス、即チ内閣總理大臣ト大藏大臣トガ監督ヲ致シ、特ニ監理官ヲ設ケ業務及會計ヲ監督シ、以テ金庫ノ基礎ヲ安固ナラシムルト共ニ公益ニ添ハシメムトスルノデアリマス、金庫ノ役員ハ理事長、理事、監事等ヲ置クコトハ產業組合中央金庫等他ノ諸金庫ト同様デアリマスガ、其ノ他ニ評議員二十人以内ヲ置クコトニ致シテ居リマス、此ノ評議員ハ業務經營ニ關スル重

要事項ニ付理事長ノ諮問ニ應ジ意見ヲ述

ベ、又進ンデ意見ヲ述ベルコトガ出來ルヤ

ウニナツテ居リマスガ、會社ニ於ケル株主總

會ニモ該當スルヤウナ組織ニ致シタイト考

ヘテ居リマス、從テ公平ナ立場デ利用者ノ

利益モ恩給年金ノ本質モ亦出資ノ安固ヲモ

考ヘ、且ハ之ヲ保護スル目的ニ適フヤウナ

方々ヲ選任シタイ希望デアリマス、尙恩給

年金等ハ公法上ノ給與デアリマシテ、特別

ノ性質ヲ有シテ居リマスカラ、ソレ等ノ關

係ヲ明カニスル爲、法案第四章ニ特別手續

ヲ規定致シテアリマス、終リニ、恩給金庫ノ

設立ノ爲設立委員ヲ設ケ之ヲシテ定款ノ作

成ヲ初メ、諸般ノ設立行爲ヲ爲サシメタル上、

之ヲ恩給金庫ニ引繼ガシムル豫定デアリマ

スハ金庫ハ時局ニ鑑ミ一日モ早く成立セシム

ル必要ガアリマスノデ、可及的設立準備ヲ取

急ギ本年七月初メヨリ事業ヲ開始セシムル

豫定デアリマス、次ニ恩給法中改正法律案ニ

付御説明申上げマス、第一ハ、只今御説明申

上げマシタ恩給金庫法案ト關聯シ、恩給法第

十一條第一項ニ規定スル擔保禁止ヲ恩給金庫

ニ限り解除スルト共ニ、從來ノ恩給擔保金融

ニ伴フ弊害ヲ除去スル爲、法規ニ違反シテ恩給

金庫以外ニ擔保ニ供シタル場合ハ恩給ノ支給

ヲ差止メムトスルノデアリマス、此ノ點ニ付キ

マシテハ恩給金庫法案ヲ御説明致シマシタ際

詳細申上げタ所デアリマスガ、恩給擔保金融

ガ段々惡質トナツテ參ル傾向ガアリ、借方ニ

モ甚ダシキ惡德ヲ行フ者ガ絶エナイ状態デ

アリマシテ、恩給年金受給者ノ品性ニ點ヨリ

モ誠ニ嘆ハシキ次第デアルト考ヘルノデアリ

マス、既ニ恩給金庫ヲ創設シタル以上、敢テ

違法タルコトヲ知リナガラ之ヲ擔保ニ供ス

ルガ如キハ嚴ニ戒メナケレバナラナイ事柄

カト考ヘルノデアリマス、現ニ宮内省恩給

令ノ如キモ違反者ニ對シテハ恩給ノ支給ヲ

差止メル旨ノ規定ガアルノデアリマスカラ、

今回ノ改正ニ當リマシテ同様制裁規定ヲ加

ヘタノデアリマス、此ノ制裁規定ハ一面ニ

於テ受給者ノ惡德ヲ矯メルト共ニ、他面恩

給金庫ノ基礎ヲ確立セシムルノ效果ガアル

ノデアリマス、即チ折角國家ガ特ニ金融機關

ヲ作ッテ受給者ノ爲己ムヲ得ザル場合ノ擔保

金融ノ途ヲ開イテモ尙從來通り一般金融業

者ノ脫法的金融ヲ默認スルコトニナリマス

レバ、金融業者ハ自己ニ利益ナル部面ノミ

ノ金融ヲ行ヒ、老年者、弱者、遺族、孤

兒等金融業者側ヨリ見レバ不利益ナル部類

ニ屬スルモノノミ恩給金庫ニ集ルコトトナ

リマシテ到底立行カナイノデアリマス、仍

テ恩給年金本來ノ性質論及金庫ノ基礎維持

ノ兩面ヨリ第二項ノ規定ヲ入レタノデアリ

マス、尙序ニ申加ヘマスガ、恩給法中ニ規

定アル支給ノ停止ト恩給ノ停止トハ性質ガ

違フノデアリマシテ、恩給ノ停止ト云フノ

ハ其ノ停止期間ニ屬スル部分ハ全然恩給ヲ

與ヘナイノデ、他日停止條件ガナクナリマ

シテモ、停止期間中ノ恩給ハ追給シナイノ

デアリマスガ、支給ノ停止又ハ差止ト云フ

ノハ現實ニ金ヲ給與シナイデ留保スルダケ

デアリマスカラ、後デ差止原因ガナクナレ

バ差止メラレタ期間ノ分モ本人ニ渡ス建前

デアリマス、第二ニ、本改正案中最モ重要

ナル點ハ増加恩給、傷病年金及遺族扶助料

ノ増額デアリマス、先ヅ増加恩給及傷病年

金ノ増額ニ付申上げマス、別表第二號表及

第三號表ヲ改正致シマシテ相當ノ増額ヲ行

ヒ、傷痍軍人優遇ノ實ヲ擧ゲムトスルモノ

デアリマスガ、改正ノ要點ハ、一、増加恩

給ハ成ルベク下ニ厚クスル趣旨ニ依リ、將

官ニ對シテハ全ク増額セズ、佐官以下ニ對

シ症狀ノ輕重ニ從ヒ適當ノ増額ヲ行ヒマス、

即チ佐官ノ階級ニ於テハ第三項以上ノ高症

者ニ對シテノミ増額シ、尉官以下ハ各項ニ

互リ増額ヲ行フモ、第三項以上ノ高症者ニ

厚カラシムルコトト致シマシタ、一、増加

恩給ヲ給スベキ不具癡疾ノ程度ヲ特別項ノ

外第一項乃至第七項トシ、概ネ從來ノ傷病

年金第一款程度ノ症狀ヲ第七項ト致シタノ

デアリマス、一、傷病年金ヲ給スベキ傷病

ノ程度ヲ第一款症乃至第四款症ニ分ツコト

從來ト變リハナイノデアリマスガ、從來ノ

第二款症乃至第四款症程度ノ症狀ヲ第一款

乃至第三款症ニ繰上ゲ、且其ノ給額ヲ増加

シ増加恩給受給者トノ給額ノ懸隔ヲ少カラ

シムルト共ニ、從來ノ傷病賜金第一目及第

二目程度ノ症狀ヲ第四款症ニ繰上グルコト

ト致シマシタ、一、傷病賜金ハ從來ノ第三

目乃至第六目ヲ其ノ金額ヲ變更セズシテ、

第一目乃至第四目ニ繰上グルノ外變更ハシ

ナイノデアリマス、以上ノ如ク増加恩給及

傷病年金ノ増額ハ現行法ノ増加恩給ト傷病

年金、傷病年金ト傷病賜金トノ關係ヲナダ

ラカニスル目的ヲ以テ立案致シマシテ、之

ニ加フルニ上ニ薄ク下ニ厚ク及高症者

優遇ト云フコトヲ眼目ト致シタノデアリマ

ス、遺族扶助料ニ付テハ最モ優遇ヲ必要ト

スルモノデアリマシテ、其ノ増額率ハ從來

其ノ比ヲ見ザル程ノ高率デアリマス、即チ

從來第七十五條第二項ノ受給權者死亡後五

年間三割加給ノ制ヲ廢シ現在ノ扶助料年額

ニ對シ、一、戰死者準戰死者遺族ニ對シテ

ハ第五號表ニ依ル率ヲ乘ジタル金額、二、

普通公務死者遺族ニハ前號ノ金額ノ十分ノ八ニ相當スル金額、三、増加恩給受給者遺族ニハ第一號ノ金額ノ十分ノ六ニ相當スル金額ヲ給シ、更ニ遺族ノ生活實情ニ即セシムル爲遺族ノ員數ニ應ズル加給制度ヲ創設シ、第五號表ニ依リ算出シタル金額ニ更ニ是亦下ニ厚キ主義ヲ採ル第八號表ノ區分ニ依リ一定ノ率ヲ乘ジタル金額ヲ加給スルコトト致シタルデアリマス、故ニ一例ヲ言ヘバ陸軍二等兵ノ戰死者ノ遺族扶助料ハ現在年額百五十圓デアリマスガ、改正法ニ依リマスト、家族二人ノ場合ハ年額二百七十圓、三人ノ場合ハ三百三十八圓、四人ノ場合ハ三百六十五圓、五人以上ノ場合ハ三百九十二圓トナリ、現行額ニ對シ最高十六割一分ノ増率トナルノデアリマス、尙家族加給ノ基礎トナルベキ遺族ノ意義ニ付、疑義ヲ生ズルコトヲ惧レ、第七十五條中ニ之ニ關スル規定ヲ置キマシタ、次ニ第十六條、第二十四條、第五十九條、第六十二條等ハ學校名ノ變更ノ爲文字の整理ヲ致シタルデアリマス、又第二十四條ニ新ニ加ヘマシタ第五號ハ行政權移讓後、在滿學校組合待遇職員ヲモ恩給法上ノ待遇職員トシテ取扱フノ趣旨デアリマス、第四十六條ノ二第一項及第十六條第一項中「一年」ヲ「三年」ト改メマシ

タノハ現行法ニ於テハ傷病年金及傷病賜金ハ下士官以下ノ軍人ニ付テハ「退職後一年内」ニ公務ニ基因シテ兵役ヲ免除セラル、コトヲ要件ト致シテ居リマスノデ、往々此ノ恩典ニ洩レルモノガアリマスノデ、之ヲ「退職後三年内」ニ改メタノデアリマス、第五十九條ノ二ヲ改メマシタノハ、恩給ノ算出スル基礎トナル俸給ニ關シ現行法デハ不備ナ部分ガアリマスノデ、序ニ之ヲ改メムトスルノデアリマス、第六十五條第一項ニ新タニ加ヘマシタ但書ハ從來増加恩給ヲ給セラルベキ程度ニ達シタル軍人ニシテ、其ノ儘現役ニ在職致シマシテ、十數年乃至二三十年モ經過シタル後ニ退職致シマス、其ノ増加恩給ハ退職當時ノ階等ニ依ル額ヲ給セラルルコトトナリマシテ、負傷又ハ罹病後直チニ退職シタル者トノ間ニ甚シキ不權衡ヲ生ズル實例ガアリマシタノデ之ヲ改正シ、負傷又ハ罹病後五年以内ニ退職セザルモノハ負傷、又ハ罹病後五年ヲ經過シタル日ニ於ケル階等ニ應ズル増加恩給ヲ給シ、以テ給與ノ公平ヲ保タムトスルモノデアリマス、第六十五條ノ二第一項ニ新タニ但書ヲ加ヘマシタガ、是ハ本改正案ニ依リマスト増加恩給第七項ノ額ハ傷痍年金第一款ノ額ヨリ少額デアリマシテ、若シ傷病年金第一款症

ニ該當スル者ガ普通恩給ヲ併給セラル、場合ニ於テハ、増加恩給第七項症ニ該當スル者ガ普通恩給ヲ併給セラル、場合ヨリ多額ヲ給セラル、コトトナリマスノデ、其ノ矛盾ヲ避クル爲ノ規定デアリマス、第六十六條ノ二ヲ新タニ加ヘマシタノハ下士官以下ノ軍人ガ傷病賜金ヲ受クベキ程度ノ傷痍ヲ受ケ、又ハ疾病ニ罹リ一旦傷病賜金ヲ受ケタル後爾後重症ニ陥リ、再審査ノ結果増加恩給又ハ傷病年金ヲ給セラル、場合ニ於キマシテハ傷病賜金ヲ受ケズシテ直チニ増加恩給又ハ傷病年金ヲ受ケタル者トノ權衡上一定ノ條件ノ下ニ曩ニ受ケタル傷病賜金ヲ返還セシムル方、給與ノ公平ヲ保ツ所以デアルト存ジ此ノ規定ヲ置イタルデアリマス、第九十一條第一項ノ改正ハ滿洲國ニ於ケル帝國ノ行政權移讓ニ伴フ字句修正デアリマス、尙附則中ニ第七十議會ニ提案シタル事項デアリマスガ、二ツノ新ナル條項ヲ規定致シテ居リマス、其ノ一ハ大正十二年ノ恩給法施行迄ハ軍人ハ現役ニ居ル間ニ入籍シ兵籍簿ニ登録サレタ妻デナイト扶助料權ガナカッタノデアリマス、大正十二年恩給法制定ノ際兵籍簿ノ登録ハ扶助料請求ノ要件トシナイコトニナッタノデアリマス、又父母祖父母モ同様現役ニ在ル間ニ同シ家ニ居ナクテ

モ公務員死亡ノ當時同一戸籍内ニ居レバ宜イト云フコトニナッタノデアリマス、併シ是等ノ規定ハ當時不遑及ノ原則ヲ採ッタノデ、大正十二年恩給法改正以後ノモノノミ適用セラレタルデアリマス、併シナガラ戰鬪又ハ戰鬪ニ準ズベキ公務ニ付レタルモノノ遺族乃至増加恩給受給者ノ遺族ニ付キマシテハ、甚ダ氣ノ毒ナ事情ニアル者ガ多イノデアリマスカラ、是等ノ者ニハ將來現行法ト同様ニ取扱フト云フ趣旨ノ改正デアリマス、今一ツノ新ラシキ條項ハ北海道廳森林監守デアリマス、是ハ大正十二年恩給法改正當時待遇職員トシテ存在シテ居タナラバ、當然其ノ在職年ハ恩給法上ノ在職年トナルノデアリマスガ、恩給法改正當時ハ名ガ變テ居マシタノデ、遡及適用ガナカッタノデアリマスガ、實質的ニ見テ北海道廳森林監守ハ恩給法上ノ他ノ待遇職員ト何等區別スル理由ナク、是ガ在職年ヲ除外スルノハ非常ニ同情ニ堪ヘマセヌカラ、今回一定ノ條件ノ下ニ將來ニ向テ其ノ在職年ヲ恩給法上ノ在職年ト見テヤルト云フ意味ノ改正ヲ行ハムトスルノデアリマス、以上改正ノ要旨ヲ概略申上ゲタノデアリマスガ、増加恩給及扶助料ノ改正増額ハ昭和十三年四月一日カラ之ヲ行フコトトシ、尙若干ノ經過規定

ヲ附則トシテ附加ヘタノデアリマス、其ノ他ノ事項ニ付キマシテハ御質問ニ應ジ御答ヘ致シタイト存ジマス、宜シク御審議ノ上御協賛ヲ賜ラムコトヲ御願ヒ致シマス

○委員長(三井清一郎君) 時間ノ都合デ午前ハ之デ休憩ヲ致シマシテ、午後一時半カラ開會致シマス

午前十一時五十七分休憩

午後一時三十六分開會

○委員長(三井清一郎君) ソレデハ只今ヨリ委員會ヲ開キマス

○子爵大河内輝耕君 恩給法ト恩給金庫法ニ付キマシテハ衆議院デ修正ガゴザイマシタガ、其ノ修正ノ箇所ト、ソレカラ其ノ意義ト竝ニ之ニ對スル政府ノ御意見トヲ伺ヒタイト思ヒマス、尙希望條項モ兩案ニ附イテ居リマスカラ是モ併セテ今ノ點ヲ願ヒタイト思ヒマス

○政府委員(高木三郎君) 衆議院ニ於ケル恩給金庫法竝ニ恩給法ノ修正意見竝ニ附帶決議ニ付キマシテ申上ゲマス、恩給金庫法案ニ付キマシテハ第二條ノ第二項後段ニ「恩給金庫ハ主務大臣ノ認可ヲ受ケ必要ノ地ニ從タル事務所ヲ設置スルコトヲ得」下アリマスノヲ「設置シ又ハ官廳其ノ他ノ機關ニ其ノ業務ノ執行ニ關スル事務ノ一部ノ取扱ヲ

委託スルコトヲ得」ト云フ條項ヲ入レタノデアリマス、是ハ恩給金庫ノ取扱ノ如何ニ付キマシテハ成ルベク廣ク事務所其ノ他ヲ設置スルコトガ宜イト云フコトヲ考ヘタノデアリマスガ、經費其ノ他ノ關係カラ致シマシテ差向キ東京ニ主タル事務所ヲ置キ、又從タル事務所ヲ必要ノ地ニ置クト云フコトダケニ限定致シテ居タノデアリマスガ、衆議院ニ於キマシテハ産業組合其ノ他ノ既存ノ機關ヲ或程度代行セシメタラドウデアルカト云フ意見ガ強カッタノデアリマス、代行ノコトニ付キマシテハ所謂代行ノ意義如何ニ依ルコトト考ヘマスケレドモ、私共ノ考ヘテ居リマス所ニ依リマス、代

行事務ノ全部ヲ包括的ニ代行セシムルト云フ意味デアリマス、恩給金庫ノ性質上他ノ機關ニ代行セシメルコトハ適當デナイト云フ風ニ考ヘテ居リマス、唯機關ヲ成ルベク廣ク擴充スルト云フコトニ付キマシテハ異議ガアリマセヌノデ、特ニ如何ナル機關ヲ使フカト云フコトヲ限定致シマセヌデ、官廳其ノ他ノ機關ニ其ノ業務ノ執行ニ關スル事務ノ一部ノ取扱ヲ委託スルト云フコトハ、當初カラ私共モ豫期致シテ居タ所デアリマシテ、其ノ點ヲ衆議院ガ法文化サレタコトト考ヘテ居リマス、次ニ十五條ノ第

二項ト致シマシテ、「恩給金庫ヲ監督スル官廳ノ官吏タリシ者ハ其ノ職ヲ退キタル後五年間恩給金庫ノ理事長、理事及監事ト爲ルコトヲ得ズ但シ主務大臣ニ於テ特ニ必要アリト認メタルトキハ此ノ限ニ在ラズ」ト云フ條項ヲ附加ヘラレタノデアリマス、更ニ其ノ第三項ニ「理事長及理事ノ任期ハ五年、監事ノ任期ハ三年」ト云フノヲ、「三年、二年」ト改メラレマシタ、是ニ對スル意見ハ法制局長カラ御答ヘテ願フコトニ致シマシテ、唯修正ノ點ダケヲ申上ゲマス、次ニ第二十五條ノ一項、二項ノ但書ヲ取ルコトニ修正サレタノデアリマスガ、是ハ恩給又ハ年金ヲ擔保ニ供シタル場合ニ於テ、金庫ハ其ノ

債權ノ效力ヲ、原則ト致シマシテハ當人ニ限り限定致シマシテ、遺族ニ及サナイト云フコトニナッテ居ルノデアリマス、唯特約ノアル場合、例ヘバ本人ガ老齡デアルトカ、病弱デアルト云フヤウナ場合ニ制限以上ニ金錢ノ融通ヲ受ケタイト云フヤウナ場合ニ於テ遺族ノ承諾ガアレバ、特約ヲ以テ遺族ノ受クベキ恩給又ハ年金ニ付テ擔保ニ供スルコトニ致シマスレバ、貸付ノ金額等モ幾分殖エルコトデアラウト考ヘマシテ此ノ但書ヲ置イタノデアリマスガ、衆議院ニ於テハ之ニ對シマシテハ、之ヲ濫用サレル虞ガ

アルト云フ風ニ考ヘラレタコトト考ヘマシタガ、此ノ但書ヲ取リタイト云フコトデアッタノデアリマス、附帶決議ト致シマシテハ「恩給金庫ノ本質ニ鑑ミ恩給金庫ノ經營費ハ最少限度ヲ以テスヘシ」、是モ私共ノ考ト全ク一致シテ居ルノデアリマシテ、金庫ノ性質カラ考ヘマシテ經費ヲ最少限度ニ止メルト云フコトハ何等異議ガナイノデアリマス、次ハ恩給法中改正法律案ニ付キマシテハ、本文ニ付キマシテハ何等修正ガナカッタノデアリマスガ、附則ノ第一條ニ二項ヲ加ヘマシテ、「第十一條第二項ノ規定ハ恩給金庫設立後三年間之ヲ適用セズ」ト云フ條項ヲ入レタイト云フコトデアリマス、是ハ第十

一條ニ依リマス、恩給ハ擔保ニ供スルコトガ出來ナイ、此ノ恩給金庫ノ擔保ニ供スル場合ノ他、擔保ニ供スルコトガ出來ナイト云フ、此ノ規定ニ違反シタル場合ニ、第二項ニ於キマシテ裁定廳ハ支給廳ニ通知致シマシテ恩給ノ支給ノ差止ラスルコトガ出來ルヤウニ事實上第十一條、第二項ガ規定シテアリマスガ、之ヲ金庫ノ設立後三年間ハ適用シナイヤウニシテ貫ヒタイト云フコトデアリマシタ、此ノ規定ハ私共ハ本來受給者ニ對スル制裁ト云フ風ニ考ヘテ居リマス、不徳ナ受給者ガアリマシテ金庫設立後ニ於

テモ尙一般ノ金融業者トノ間ニ色々紛争ヲ起スト云フコトノ虞ガアリマスノデ、サウ云フモノニ對シテハ或程度ノ制裁ヲ加ヘル方ガ宜クハナイカト云フコトデ、此ノ第十一條ノ二項ヲ置イタノデアリマスガ、此ノ點多少トモ金融業者ヲ刺激シテ居ルヤウデアリマシテ、三年間之ヲ適用セズト云フ規定ヲ設ケタイト云フヤウナコトヲ言ハレテ居ルノデアリマス、但シ此ノ點ニ付キマシテハ此ノ規定ノ有無ニ拘ラズ事實上ノ支給差止ヲ支給廳ニ於テ行ヒ得ルノデアリマスカラ、此ノ條文ガ入リマシテモ實際ノ運用上ニハ格別ナ支障ハナイト私ハ考ヘテ居ルノデアリマス、次ニ附帶決議ト致シマシテ「昭和十二年七月二十一日勅令第三百六十號ニ依リ恩給證書ノ再交付ヲ爲サムトスル場合ハ再交付申請人ノミナラズ其ノ關係人ニ付具ニ之カ實情ヲ調査シ萬已ムヲ得サル者ニ限り之ヲ爲スヘシ」ト云フ附帶決議ガ附イテ居リマス、是ハ從來受給者ト金融業者トノ間ニ恩給證書擔保ノ金融ヲ繞リマシテ色々紛争ヲ起シテ居リマス、是モ先程法制局長官ノ説明中ニモ申上ゲタノデアリマスガ、從來動モ致シマスルト、金融業者ノ手ニ渡リマシタ恩給證書ガ所在不明ニナリマシテ、既ニ辨濟後ニ於テモ尙恩給證書ガ

戻ラナイト云フヤウナ例ガ屢、アルノデアリマス、又一面恩給ヲ擔保トスル金融ハ違法デアルト云フコトカラ致シマシテ、大審院ノ判例ニ於キマシテハ、民事ノ判例ハ總テ右ノ場合ノヤウナ特約ハ無効デアルト云フ判例デアアルノデアリマス、其ノ判例ニ依リマシテ恩給證書返還ノ強制執行ヲ致シマシテモ、或場合ニ於テハ……大部分ノ場合ニ於テ執行不能ニナル場合ガ多イノデアリマス、サウ云フ點カラ考ヘマシテ、昨年勅令三百六十號ニ依リマシテ恩給證書ノ再交付ヲ稍、手續ヲ簡單ニ致シタノデアリマス、其ノ結果、從來ノ金融業者ノ間ニ相當ノ恐慌ヲ起シテ居ツタヤウデアリマスガ、今期衆議院ニ於ケル請願等ニモ其ノ點ガ現レテ居リマシテ、再交付ヲ致ス場合ニ恩給局ガ相當ノ手心ヲシテ貫ヒタイト云フコトヲ屢、申シテ參ッテ居ルノデアリマス、此ノ點ニ付キマシテハ私共モ借リタ金ヲ返スト云フコトハ當然ノコトデアッテ、借金ノ踏倒シヲ獎勵スルト云フヤウナ意思ハ毛頭持合セテ居ナイ、唯恩給ヲ擔保トスル債權債務ノ關係ハ表向ノ問題トシテハ違法デアアルノデ、ソレヲ助長スルヤウナ方法ハ執レナイ、併シ成ルベク將來ニ於テハ金庫デモ出來マスレバ、サウ云フ問題ハ自然ニ消滅スルコトト考ヘ

ルノデスケレドモ、事實上再交付ヲ致ス場合ニ付テ恩給局ガ或程度ニ考慮ラスルト云フヤウナコトハ不可能ナコトデハナイト考ヘラレマス、又サウ云フコトニ依リマシテ餘リ摩擦ヲ起サセナイヤウニスルト云フコトモ一應ノ理由ノアルコトデアリマスノデ、此ノ附帶決議ニ對シマシテハ必ズシモ反對スルノ根據ハナイト考ヘテ居リマス、大體衆議院デ修正セラレマシタ點竝ニ附帶決議トシテ現レマシタモノハ、只今申上ゲマシタヤウナ諸點デゴザイマスガ、之ニ對スル政府ノ意見ハ法制局長官カラ申上ゲテ戴キタイト思ヒマス

○政府委員(船田中君) 衆議院ニ於ケル恩給金庫法竝ニ恩給法中改正法律案ニ對スル修正ノ條項及附帶決議ニ付キマシテハ、只今恩給局長カラ御説明申上ゲタ通りデアリマシテ、之ニ對シマシテ政府ト致シマシテハ、必ズシモ此ノ修正ノ簡條ニ遽ニ贊成シ難イノデアリマスガ、殊ニ恩給金庫法案ノ第十五條第二條ニ恩給金庫ヲ監督スル官廳ノ官吏タリシ者ハ其ノ職ヲ退キタル後五箇年間恩給金庫ノ役員トナルコトガ出來ナイト云フ趣旨ノ條項ヲ新タニ加ヘラレタノデアリマスガ、是ハ本案バカリデナクシテ、日本發送電株式會社法案其ノ他ノ特殊會社

ノ役員ニ付キマシテ同様ノ規定ガ挿入セラレ、コトニナリマシテ、是ハ新聞デモ既ニ御承知ノ通りニ、最近所謂官僚獨善ト云フコトノ非難ガ相當深クナッテ參リマシテ、ソレニ對スル反感カラ斯様ナ規定ガ出來タノデハナイカト思ハレルノデアリマスガ、此ノ問題ニ付キマシテハ修正ヲ主張セラル、モノニ對シマシテ、政府トシテハ官吏制度全般ニ付テ目下一般ノ改善ノコトヲ考ヘテ居リマシテ、從ッテ所謂官僚獨善ノ弊害ヲ出來ルダケ少ク致シテ參リタイト云フ考ヲ以テ目下調査立案中デアアルノデアリマスカラ、斯様ナ規定ハ是非廢メテ貫ヒタイト云フコトヲ之ヲ全般的ニ申シタノデアリマスルガ、遂ニ衆議院ノ方デハ政府ノ要望ヲ容レマセヌデ、此ノ條項ガソレノ法案ノ中ニ入ルコトニナリマシタ、唯恩給金庫法案ニ付キマシテハ、十五條第二項ノ文言ノ如クニ、「但シ主務大臣ニ於テ特ニ必要アリト認メタルトキハ此ノ限ニ在ラズ」ト云フ緩和規定ガアリマスカラ、實際ノ運用ノ上ニ於テハソレ程致命的ノモノデハナイト考ヘテ居ルノデアリマスガ、併シ是ハ動モスルト、所謂官僚ト民間トノ相剋摩擦ノ一ツノ誘因ヲ成スヤウナコトニナリハシナイカト云フコトヲ憂慮致シテ居リマスノデ、

サウ云フ趣旨ニ於キマシテ、政府トシテハ同意シ兼ネルト云フコトヲ申上ゲタ次第デアリマス、其ノ他ノ修正案ニ付キマシテハ、只今恩給局長ガ御説明申上ゲマシタヤウニ、何レモ致命的ノ大修正デアリマセヌシ、又附帯決議ニナツテ居リマスルコトハ是亦當然ノコトデアリマシテ、政府ト致シマシテモ、此ノ附帯決議ノ趣旨ニ則ツテ運営ヲ適當ニヤツテ行カウト云フ考ヲ有ツテ居リマスルカラ、大體ニ於テ此ノ修正及ビ附帯決議ニ對シテハ、マア非常ナ強イ意味ニ於テ反對ヲ表明スル程ノコトハナイト考ヘテハ居ルノデアリマス、唯先程申上ゲタ通りニ此ノ十五條ノ二項ト云フヤウナ規定ガ全般的ニ各法案ニ入ルト云フコトニ對シテ、甚ダ面白クナイ現象デアルト云フヤウニ政府ハ考ヘテ居ルノデアリマス、政府ノ意見ヲ一應申上ゲテ置キマス

○男爵前田勇君 今ノ修正案ノ……恩給金庫ノ方ノ第二條ノ修正案ノ所デアリマスガ、一番終リノ方ニ「事務ノ一部ノ取扱ヲ委託スルコトヲ得」ト云フ風ニ修正サレタノデゴザイマスガ、取扱ト云フノハドノ程度ノ意味デゴザイマセウカ

○政府委員(高木三郎君) 此ノ點ハ只今申上ゲマシタヤウニ、代行ト取扱トノ意味ヲ

區別シテ考ヘタイト考ヘテ居リマスカラ、具體的ニ申上ゲマスレバ、代行ト云フコトニナリマスレバ、例ヘバ産業組合ナラ産業組合ガ産業組合ノ事務トシテ取扱フト云フコトニナルト考ヘマス、處ガサウデアリマセヌデ、事務ノ一部ノ取扱ヲ委託スルト云フコトニナリマスレバ、ソレ等ノ機關ハ恩給金庫ノ手足……「ブランチ」トシテ働クト云フ意味ニ解釋致シタイト考ヘテ居リマス、ソレデゴザイマスカラシテ、具體的ニ申上ゲマス、擔保貸付ノ希望ガアリマシタ場合ニ、書類ノ取扱等ヲ委託スルノハ此ノ規定ノ中ニ入リマスガ、ソレノ決定等ハ矢張り本部其ノ他ノ恩給金庫ガ行フト云フコトニ致シタイト考ヘテ居リマス

○男爵前田勇君 今ノ所デモウ一ツ何ツテ置キタイトノデスガ、サウシマスト詰リ貸付ノ仕事ダケノ取扱デ、其ノ收支計算ト云フヤウナコトハヤラセナイト云フ方針デゴザイマスガ、或ハ又代行デハナイ、代理ト云フ方ノ……庶民金庫ニ謂フヤウナ代理ト云フ方ノコトヲヤラセルト云フ御趣旨デアリマスガ、其ノ點モ一ツ御聽キシタイト

○政府委員(高木三郎君) 前段ノ取扱ニ致シタイト云フ風ニ考ヘテ居リマス、即チ收支計算等ハ恩給金庫ノ計算ニ於テヤリタイ

ト云フヤウニ考ヘテ居リマス

○子爵大河内輝耕君 今日ハ此ノ位デ如何

デゴザイマセウカ

○委員長(三井清一郎君) 本月初メテ参考

書類モ頂戴シタバカリデゴザイマスカラ、

本日ハ此ノ程度デ散會致シマス

午後一時五十六分散會

出席者左ノ如シ

委員長 三井清一郎君

副委員長 男爵渡邊 修二君

委員 侯爵大隈 信常君

侯爵井上 三郎君

伯爵山田 英夫君

子爵大河内輝耕君

子爵裏松 友光君

子爵大岡 忠綱君

宇佐美勝夫君

内田 重成君

男爵前田 勇君

男爵柴山 昌生君

丸山 鶴吉君

深井 英五君

濱口儀兵衛君

野村 徳七君

岩崎 清行君

政府委員

内閣恩給局長 高木 三郎君

法制局長官 船田 中君

海軍政務次官 一宮房治郎君

昭和十三年三月十三日印刷

昭和十三年三月十四日發行

貴族院事務局

印刷者 内閣印刷局